

第 80 号【2013/11/1 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『緩和医療チームの紹介』

緩和医療科 准教授 横山 和彦

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- 医療連携室からのお知らせ
- 患者さんからのご意見・ご要望
- 北部イベント
- TOPICS
- 編集後記



秋晴れの空

巻頭言

『緩和医療チームの紹介』



緩和医療科
准教授 横山 和彦

みなさんは「緩和ケア」をご存知でしょうか。

がんは日本人の死因の中でもっとも多い病気です。一生のうちで2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。このように決して他人事ではない誰もが患うかもしれない病気なのです。がん患者さんはがん自体の症状のほかにも、痛みやだるさ、苦しさなどのからだにあらわれる症状や、つらい、悲しい、眠れないなどの精神的に引き起こされてくる症状に悩まされることがあります。緩和ケアとは患者さんのそのようなからだや心に現れてくるさまざまな苦痛症状を取り除き、患者さんご家族に対して生活の質（Quality Of Life：QOL）をできる限り望ましいものに改善させる医療のことです。がんと診断されたらがんに対する治療を行います。身体的にも精神的にもつらい症状を抱えながらの治療になるため、病気や治療に向き合う気持ちも病気を克服しようという覚悟も萎えさせてしまいかねません。早い時期より苦痛症状を緩和しながらがんに対する治療を行うことで予後が改善するという論文もあります。したがってがんと診断された早い時期から緩和ケアを導入することにより患者さんやご家族の苦痛症状を和らげ、前向きに治療を行えることでよい結果につなげることが可能になります。

当院には緩和医療チーム（Palliative Medicine Team：PMT）があります。入院患者さんの苦痛を取り除くことを目的として活動しているチームです。緩和医療チームのメンバーは身体症状を担当する医師、精神症状を担当する医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で構成されています。

一般病棟に入院中の身体的、精神的、心理社会的、スピリチュアルな問題などさまざまな苦痛症状を抱えているがん患者さんやご家族はそのことを主治医や担当のスタッフに伝えてください。主治医が必要と判断したくしどもに依頼をいただいた時から緩和医療チームが苦痛緩和に関わっていきます。「苦痛症状を軽減し、患者さんやご家族が治療に専念でき、希望する療養生活が可能となるように支援する」ことがチームの活動の基本です。チームの活動はコンサルテーション型ですので、チームとして薬剤師の処方や処置、指示を行うことはありませんが、相談・提案といったかたちで患者さん、ご家族そして治療スタッフのサポートを行います。

緩和医療チームメンバーで週1回カンファレンスを行い、患者さんの症状や状態を把握し、方針を決めた後から患者さんのベッドサイドへ訪問します。主治医や病棟の看護師、薬剤師とともに、患者さんの痛み、はきけ、だるさや気分の落ち込み、眠れないなどの様々な症状を緩和し、自分らしさを保ち、生活のスタイルを取り戻せるような治療やケアのアドバイスをさせていただきます。症状や様子に変化が起こる場合には定期回診以外にも病棟や患者さんのベッドサイドへ訪問いたします。

がんになった時、病気だけではなくそのほかのいろいろな苦痛と闘わなければいけないとしたら……。痛みや苦しさはあなたの生きるエネルギーを奪い、病気と闘う気力を奪います。どうぞ、体の不調やつらさを我慢しないで、主治医、看護師、薬剤師などにお気軽にご相談ください。きっとあなたのお役にたてることもあるかもしれません。わたしたちは、あなたやあなたのご家族の痛みやつらさを緩和する手助けをいたします。医療スタッフの方々、患者さんに相談されましたら気軽にご連絡ください。

決して「緩和ケア」は「終末期医療」ではありません。がんと診断された早期から、「いつでも、どこでも、切れ目のない緩和ケア」を合言葉に私たちは活動しています。

緩和ケア病棟は全国で290箇所（平成25年9月現在）あります。当院にも25床の緩和ケア病棟がありますが苦痛を持ったすべてのがん患者さんが利用できるわけではありません。入院できる患者さんは一定の基準があります。治療中の患者さんはどんな苦痛症状があっても入院することができません。しかしがん治療中であっても苦痛症状のある患者さんは緩和ケアを受けることができます。そのことは忘れないでください。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

9月～10月

【新規採用】



澤田 成彦
(消化器センター)
徳島大院
平成 16 年卒



石垣 智之
(消化器センター)
昭和大学
平成 19 年卒



北原 優
(内科)
昭和大学
平成 21 年卒

【附属施設より】



保坂 浩臣
(皮膚科)
藤が丘病院
皮膚科より



古屋 貫治
(整形外科)
藤が丘病院
整形外科より



神尾 義人
(救急センター)
藤が丘病院
呼吸器外科より



柳井 亮
(内科)
昭和大学病院
リウマチ・膠原病内科より

【配置転換】

□林 靖子 (消化器センター ⇒ 救急センター)

□矢川 裕介 (消化器センター ⇒ 救急センター)

【学外研修終了】

□片岡 伸一 (消化器センター)

□前田 康晴 (消化器センター)

□釋尾 有樹子 (消化器センター)

□中村 大樹 (消化器センター)

□矢川 裕介 (消化器センター)

□前田 知世 (消化器センター)

異動 退職医師

9月～10月

【附属病院へ】

□中田 土起丈 (皮膚科 ⇒ 藤が丘病院 皮膚科)

□大熊 公樹 (整形外科 ⇒ 藤が丘病院 整形外科)

□平林 千寿 (こどもセンター ⇒ 昭和大学病院 小児科)

□鈴木 浩介 (呼吸器センター ⇒ 藤が丘病院 呼吸器外科)

【長期学外研修】

□竹原 雄介 (消化器センター) □一政 克郎 (救急センター) □工藤 孝毅 (消化器センター)

□加藤 一樹 (消化器センター) □山内 章裕 (消化器センター) □佐藤 雄太 (消化器センター) □吉田 典世 (内科)

【退職】

□櫻井 裕子 (こどもセンター)

□松浦 弓恵 (内科)

□及川 裕将 (消化器センター)

診療統計

2013 年 8 月～9 月統計データ ()内は 1 日平均

診療実日数 8 月 (入院: 31 日・外来: 27 日)、9 月 (入院: 30 日・外来: 23 日)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
8 月	31,400 人(1,163.0 人)	18,893 人(609.5 人)	369 件(11.9 件)	807 件(36.7 件)
9 月	29,041 人(1,262.7 人)	17,295 人(576.5 人)	305 件(10.2 件)	589 件(31.0 件)

地域医療連携室からのお知らせ

昭和大学横浜市北部病院は**地域の中核病院**として高度な医療を提供してくために地域の医療機関と役割分担を行っています。そのため、患者さんに最適な医療を提供していくために「**かかりつけ医(ファミリードクター)**」を推奨しています。

また、病気の症状が安定した患者さんは服薬管理や生活指導をファミリードクターにお願いするため、再び紹介させて頂いております。

港北区・緑区・青葉区の先生方のプロフィールを順次ご紹介していきます。地域の医療機関の先生方の住所・診療時間・科目やドクターの人となり、得意分野などにもスポットをあてて紹介しています。“かかりつけ医”の情報源としてお役に立てれば幸いです。



(過去掲載分(都筑区の先生方)につきましては北部病院HPをご参照下さい。)

<http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/guide/pr/press/>

※ご提出頂いた順で掲載しております。

内科/リウマチ科/アレルギー科

JR横浜線、田園都市線長津田駅より徒歩1分

あかおぎ内科リウマチクリニック

緑区長津田4-2-18-2F

Tel : 045-988-8080

<http://akaogi-clinic.jp/>



院長 赤荻 淳 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～18:30	●	●	●	-	●	-	-	-

リウマチ患者さんに体調不良時に気兼ねなく受診できると喜んでもらっています。自分の専門分野において、最先端の治療を提供できるよう日々の診療に取り組んでいます。

今後、リウマチ患者さんのみならず近隣の諸先生方にも信頼してもらえるよう精進して参ります。

内科／循環器科／小児科

東急田園都市線藤が丘駅より徒歩7分

荻原医院

青葉区藤が丘1-44-8

Tel : 045-973-3399



院長 荻原 篤 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～19:00	-	●	●	-	●	-	-	-

東急田園都市線藤が丘駅から歩いて7分ほどの、住宅街の中にある診療所です。駐車場は車3台分あります。玄関までに数段の階段があり、バリアフリーではありません。小さな診療所ですので、できることは限られていますが、「ともに納得のできる医療」を実践するよう心がけています。時に持ち時間が長くなることもあり、ご理解を頂きたくよろしくお願い申し上げます。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー：できることをこつこつと
- 趣味/特技：

瀬田クリニック新横浜

港北区新横浜2-3-12新横浜スクエアビル15F

Tel: 045-478-0086

<http://www.j-immunother.com/>

院長 神垣 隆 先生

患者さんにあった免疫細胞治療を提供できるよう、患者さんの病状、加療状況などから、総合的に治療の種類やタイミングを選択していきます。患者さんと一緒に考え、そしてより良い治療ができるよう、ともに歩むパートナーとしてスタッフ一同、日々努力をしております。皆さんに信頼され、安心して治療をお受けいただけるよう患者さんの心のケアや人生・生活の質を大切にしながら真摯に診療に向き合っていきたいと思っておりますので、お気軽にご相談ください。

	月	火	水	木	金	土	日	祝
10:00～13:00	●	●	●	●	●	-	-	-
14:00～18:00	●	●	●	●	●	-	-	-

のぞみクリニック

港北区新横浜3-20-3 リバサイドビル501

Tel: 045-470-7852

<http://homepage2.nifty.com/nozomiclinic>

院長 川原 健資 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:25～13:00	●	●	●	-	●	●	-	-
14:50～18:30	●	-	-	-	●	◎	-	-

◎は偶数週土曜日のみの診療(14:20～17:00)

※完全予約制になります。

当院はストレスに対する反応として、こころとからだの両面に現れる様々な症状に対して、診療内科的に心身両面からアプローチしていく診療を行っています。特に以下の点に力を入れて診療を行っています。①「かかりつけ医」として、心身両面からケア致します②表現されている心身の症状の背景にある問題は何かを考えて、治療に活かします③必要に応じて、臨床心理士による専門的な心理テストやカウンセリングも行います④近隣の医療機関との積極的な連携を行います⑤産業医の視点を取り入れ、職場復帰などに反映させます。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー: 確乎不拔
- 趣味/特技: 音楽鑑賞、ガーデニング

つむらや内科

港北区日吉本町4-25-63

Tel: 045-566-2300

<http://www13.plala.or.jp/tsumuraya-naika/>

院長 圓谷 徹彦 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	-	-
14:30～17:30	●	●	●	-	●	-	-	-

人工透析は午前9:20～、午後は12:45～で祝日も行っています。

受付時間は8:45からです。

最新の整備と熟練した技術で安心と安全をモットーとした、地域密着のかかりつけ医です。昭和大学腎臓内科出身の院長を中心に、スタッフ一丸となって患者様に安心と安全な医療を提供します。

平成19年3月に開設した、人工透析を中心に一般内科として、腎臓病・高血圧・糖尿病等すべての内科系疾患を診断、治療する地域のかかりつけ医です。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー: 思いやり、心温まる医療
- 趣味/特技: ウォーキング

山本内科循環器医院

青葉区藤が丘2-19-1-1A

Tel: 045-971-6088



院長 山本 俊夫 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～18:00	●	●	-	-	●	-	-	-

循環器内科ではありますが、親から引き継いだこともあり、内科・小児科を主体として町のお医者さんのような、大人から子供までが気軽に相談できる医院を目指しています。循環器では特に不整脈を専門としています。今後も家庭医として診療をしていきたいと思ひます。

～院長先生に一问一答～

- 座右の銘又はモットー: 患者さんの話をよく聞く
- 趣味/特技:

きくな湯田眼科

港北区菊名4-2-7

Tel: 045-435-3755

<http://www.yudaganka.jp/>

院長 湯田 兼次 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	-	●	●	-	-
15:00～18:00	●	●	●	-	●	◎	-	-

◎土曜日の午後は15:00～16:30

涙道疾患、屈折矯正手術(レーシック等)に力を入れています。
網膜疾患に対しての詳細な検査(血流・機能・構造の変化など)が可能です。

～院長先生に一问一答～

- 座右の銘又はモットー: 最新医療を身近に
- 趣味/特技: コンピュータ組み立て

横浜ながつた内科・呼吸器クリニック

緑区長津田4-11-14

Tel: 045-989-5822

<http://www.yokohama-nagatsuta-clinic.net/>

院長 瀬戸 武志 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	-	-
14:30～18:30	●	●	-	●	●	-	-	-

東急田園都市線、JR横浜線の長津田駅西口すぐ「さくらクリニックモール」内にある呼吸器・アレルギー専門(呼吸器専門医)の内科クリニックです。
一般内科外来・呼吸器外来・アレルギー外来・睡眠いびき外来・禁煙外来(保険診療可)・予防接種・健診に対応しています。

被ばく低減技術搭載マルチスライスCT装置を導入しており、健診で胸部異常を指摘された方だけでなく、気管支拡張症・非結核性抗酸菌症・肺気腫(COPD)のご病気でCT検査による経過観察が必要な方にも対応可能です。(クリニック敷地内に無料駐車場19台あり)

～院長先生に一问一答～

- 座右の銘又はモットー: 為せば成る、為さねば成らぬ何事も
- 趣味/特技: スポーツ観戦(主にサッカー)

日吉東急鈴木眼科

港北区日吉2-1-1

日吉東急7ペーニュ南館2F

Tel: 045-563-5600

<http://www.suzu-ganka.com/>

院長 鈴木 聡志 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
10:30～13:30	●	●	●	●	●	●	◎	◎
15:00～19:00	●	●	●	●	●	◎	◎	◎

◎は院長不在のため勤務医診となりますので紹介状の方は避けて下さい。

眼科、レーザー、日帰り白内障手術、日帰り簡単な硝子体手術を行っております。

緑メンタルクリニック

緑区中山町306-7 グレースメゾン2F

Tel: 045-933-3418



院長 池田 信之 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	-	●	●	-	-
14:00～17:00	●	●	●	-	●	-	-	-

昭和58年に『緑神経科』として中山駅前に開院しました。平成20年より『緑メンタルクリニック』として待合室を広くし、新しく開院しました。現代社会はストレスの時代であり、ストレスにより身体の変調、心の変調を生じてしまいます。これが自律神経失調症であったり、うつ病であったりします。

精神科のプライマリー・ケアとして、多くの疾患に対応できるように努力しているところです。資格として精神保健指定医、指導医、また専門医があります。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー: 優しい言葉・笑顔で挨拶
- 趣味/特技: 特になし

菊池整形外科医院

港北区篠原町1132

Tel: 045-431-8950

<http://www2.ocn.ne.jp/~kortho/home.html>

院長 持田 睦 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30～12:00	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～18:00	●	●	-	-	●	-	-	-

整形外科専門医として、骨折、腰痛、関節痛、神経痛、骨粗鬆症など一般整形外科診療のほか、リウマチ専門医として、関節リウマチの治療も行っております。

(東京女子医大膠原病リウマチ痛風センター 非常勤講師)
また、駐車場を併設しております。

日横クリニック

港北区日吉本町1-20-16

Tel: 045-563-4115

<http://www.himawari-kai.org/clinic.html>

院長 鈴木 悦朗 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	-	●	●	●	-	-
15:00～19:00	●	◎	-	-	●	-	-	-

◎は予約検査のみ対応(15:00～17:00)

※原則として診察は予約制となっています。急患は随時受け付けます。

平成7年より日吉駅近くで開業しました。当初より在宅医療を行っています。訪問看護ステーションを併設し、看護師やケアマネージャー、介護施設とITを用いた情報共有や定期的な会議を行い連携し、地域で高齢者の方々が安心して過ごせるようにスタッフ一同心がけています。

外来部門は予約制で待ち時間の短縮に努めております。臨床検査技師が迅速に検査を行っております。また、管理栄養士による栄養指導も行っています。

小児科

JR横浜線十日市場駅より徒歩7分

吉田小児科医院

緑区霧が丘3-8-3

Tel: 045-921-5851



院長 吉田 京子 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	-	-
16:00～18:00	◎	●	●	-	◎	-	-	-

◎月曜日と金曜日の午後は13:30～15:00

病気を治すことはもちろんですが、病気にならないための予防、日常の生活習慣等に重きを置いて考えています。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー: 患者さんの立場になって考える
- 趣味/特技:

耳鼻咽喉科

東急田園都市線市ヶ尾駅より徒歩2分

西山耳鼻咽喉科

青葉区市ヶ尾町1156-11

アビシン市ヶ尾1F

Tel: 045-972-6400

<http://www.aoba-ku.jp/nishiyama/>

院長 西山 哲 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	-	●	△	-	-
15:00～18:30	●	●	●	◎	●	-	-	-

◎木曜日の午後は14:00～18:30

△土曜日の午前は9:00～13:00

昭和63年開院以来、皆様に信頼される医療を目指して頑張ってきました。今後も患者様の立場に立って、親切で丁寧な治療を心がけて続けていきたいと思っております。病気や治療について、わかりにくい点がありましたらお気軽にご質問下さい。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー:
- 趣味/特技: 旅行、写真

池田医院青葉区恩田町3032-12
Tel: 045-982-2525

院長 池田 威 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～19:00	●	●	●	●	●	-	-	-

長年にわたり、開業医は専門性より総合力が大切だと感じ、幅広い分野に精通するよう心がけ、お子様からご老人まで来ていただいております。開業という状況下で知識に後れをとってはいけないと強く感じ、書物を始め勉強会、学会には積極的に出席し、最先端の情報を取り入れるよう努力しております。

また、放射線科専門医として、患者さんの変化や初診時の不安に対し原因を探る際、画像診断が早期発見に非常に役に立っております。現役であるうちは責任を持って地域の方の健康を支えたいという信念の元、日々診療にあたっております。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー：患者さんを第一に考える
- 趣味/特技：サッカー、ダイビング、フットサル

眼科

東急田園都市線たまプラーザ駅より徒歩1分

たまプラーザテラスむくもと眼科

青葉区美しが丘1-1-2

たまプラーザテラスゲートプラザ2F

Tel: 045-482-3215

<http://www.mukumoto-ganka.com>

院長 原本 茂裕 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
10:00～12:30	●	●	●	●	-	●	●	●
14:30～18:30	●	●	●	●	-	●	◎	◎

◎日曜祝祭日の午後は14:00～17:30

地域の皆様に支えられ、おかげ様で開院から3年目となりました。アレルギー・ドライアイ等々、日常生活のご不便等でお気軽に来院していただけるようなクリニックを目指しています。

眼に関するさまざまなご相談にお越しく下さい。丁寧な診察・わかりやすい説明を心がけております。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー：診療は患者様とのコミュニケーションが第一
- 趣味/特技：水泳、野球

循環器内科

東急田園都市線青葉台駅より徒歩7分

清水内科医院

青葉区青葉台1-28-2

Tel: 045-981-7231

<http://www.shimizu-medical.com>

院長 清水 信行 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	-	●	●	-	-
16:00～19:00	●	●	●	-	●	-	-	-

当院は循環器（心臓、血管、肺の病気）及び、生活習慣病（高血圧、高脂血症、糖尿病など）を専門とするクリニックです。もちろん、内科全般の診療経験も豊富ですのでどんな病気のことでもお気軽にご相談ください。

大学病院でのさまざまな経験を生かし、患者様の立場に立った丁寧で心のこもった診療を心掛けております。初めての方にも、スタッフが笑顔で対応いたします。「病院に行くから」と身構えず、お気軽にお越しく下さい。

宮崎眼科

緑区長津田みなみ台4-7-17ピタ長津田1F

Tel: 045-989-1805

<http://www.miyazakiganka.com>

院長 宮崎 正人 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
10:30～12:30	●	●	●	●	●	●	●	●
14:00～19:00	●	●	●	●	●	●	●	●

平成17年よりアピタ長津田1階にて眼科を開業しております。地域に密着した医療を目指しております。スタッフ一同すべてのひとにやさしい診療を心がけておりますので、目のことなら何でもお気軽に御相談下さい。

土、日、祝日も通常通り夜7時まで診療しております。無料駐車場も1500台完備しており、買い物ついでに来る方、お勤めの帰りや、お休みの日などにもぜひご来院下さい。

清水医院

港北区菊名3-21-10

Tel: 045-431-8425

<http://www.shimizuiin.com>

院長 清水 眞一 先生

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	-	-
15:00～19:00	●	●	●	●	●	-	-	-

※木曜日は代診となります。

父の代から50年以上続く開業医の経験を生かし、「町のお医者さん」としてプライマリ・ケアを行い、近隣の総合病院と密に連携を取りながら、地域の皆様が元気で長生きできるようサポートすることに努めています。生活習慣病はもちろん、各種健康診断・検診、予防注射から往診まで、お気軽に御相談下さい。広い駐車場もあります。

～院長先生に一問一答～

- 座右の銘又はモットー: いわゆる「かかりつけ医」を目指しています
- 趣味/特技: 音楽(cello)、各種スポーツ

横山クリニック

港北区大倉山4-5-1

Tel: 045-531-1575

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	◎	-	-
15:00～18:00	●	●	●	-	●	-	-	-

◎土曜日の午前は9:00～13:00



院長 横山 幹彦 先生

患者さんの希望をなるべくとりいれた医療を心がけています。検査を希望されない場合はなるべくしないように、投薬を希望されない患者さんへは最小限の処方にとどめています。紹介希望患者さんへはすみやかに希望の病院を紹介しています。

～院長先生に一問一答～

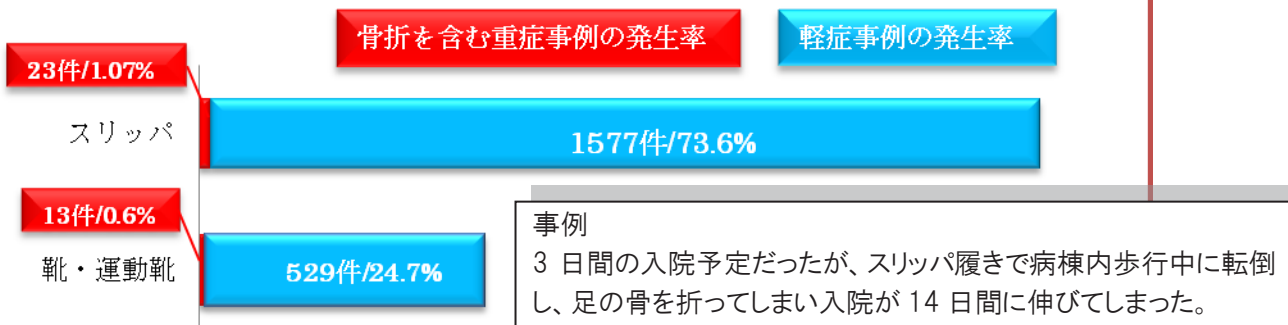
- 座右の銘又はモットー:
- 趣味/特技: テニス

患者さんへのお知らせ・お願い

総合相談センター通信 vol.13 ≪靴(安全性を追求した履物)への以降のお願い≫

総合相談センターでは医療安全に関する相談が多く寄せられます。その中で「入院中の履物」に関する相談について、医療安全の転倒予防の観点から患者さんにとって知っていただきたい情報であるため、今回はスリッパと靴の重症・軽症発生を踏まえた入院中の靴(安全性を追求した履物)に関するご案内をさせていただきます。

転倒・転落時のスリッパと靴の重症度の比較



【2008 年4月 1 日～2012 年 3 月 31 日までの転倒・転落に関する報告件数より(n=2146 件)表 1】

転倒が多い場所

転倒が多い場所の 1 位は病棟ベッドからの移動時が多く、2 番目のトイレは排泄に伴う歩行や起立時などが要注意です。外来や検査部門での歩行中や移動動作中の転倒が報告されていました。そのため、北部病院では 5 年間の発生件数から転倒場所の多い順に病院内に注意喚起の掲示を行っています。

【1 位】



〔ベッド移動時〕

【2 位】



〔排泄時の歩行や起立時〕

【3 位】



〔移動・生活訓練作業中〕

入院される患者さん・ご家族の方へお知らせ

これまで靴については、歩行状態に問題がある方やリハビリ中の方が対象でしたが、スリッパは院内では非常に滑りやすく、けがや転倒の元になります。そのため、2013 年 9 月より簡便なスリッパから安全性を追求した履物への移行を、患者さんの入院準備の段階より意識して頂くようパンフレットを配布しています。

入院中は「履き慣れた」、「滑りにくい」、「かかとをおおう靴」で過ごすようにご協力をお願い致します。



患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	改善等
採血の際、血管が細いせいか内出血になってしまうことが多いので極細の針を使ってほしい。	十分な対応ができず申し訳ありませんでした。採血室では受付の際にご本人から「採血困難である」「血管が細い」などとお伝え頂ければ、それに合わせた対応をしたいと思います。 また、採血時にスタッフへお気軽に声をかけて頂けるように、採血室内にご案内の掲示を行う予定ですのでそちらもご確認ください。患者さんから申出しやすい雰囲気づくりに努めてまいります。
名前を呼ぶときや説明をするときなどにマスクを外してほしい。	配慮が足りず失礼いたしました。マスク着用が必要な場面は多くありますが、聞こえにくいかな確認するなど着用をしても理解していただけるようなコミュニケーションを心がけてまいります。
家族の者が入院していますが、看護師さんに患者への心配りを良くしていただけるのでほっとします。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も患者さんの状態に応じ、気持ち良く入院生活を送っていただけるよう努めてまいります。

北部イベント

秋季公開講座

10月19日(土)、当院西棟4階講堂におきまして秋季公開講座を開催致しました。今回の公開講座は『防ごうインフルエンザとノロウィルス』、『食の安全・空気の安全』の2テーマで、85名の方々にご参加いただきました。

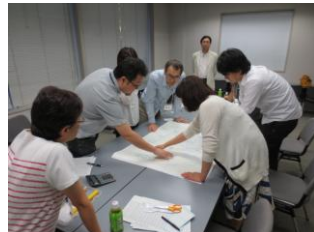
参加者からは、「マスクの付け方や手洗いの実技があって分かりやすかった」、「受動喫煙に気を付けようと思った」、「食生活の改善に役立つ話だった」といった感想をいただきました。

今後も、役に立つ医療情報をお届けしてまいります。来年度の公開講座につきましては、詳細が決まり次第、院内掲示・ホームページ等でお知らせ致します。



北部病院ワークショップ

平成25年10月11日～12日にオンワード総合研究所にて平成25年度北部病院ワークショップを開催しました。『経費削減～医療収支・収益の改善方策～』をテーマに、各職種から集まった18名の参加者が検討を進めました。グループごとに業務中に感じる削減可能なものごとを洗い出し、それについて具体的な解決策を検討しました。業務にあたる意識の見直しをする良い機会となりました。



昭和大学横浜市北部病院では2012年7月にQuality Indicator(QI)委員会を立ち上げました。2013年の公開を目標として、一般の方に理解されやすく、また医療の質向上に有益と考えられる指標を、(1)ストラクチャー、(2)プロセス、(3)アウトカム別、また部門ごとに検討してきました。

Donabedian (1919-2000)は1966年に発表した論文で『医療の質』は、

- (1)ストラクチャー（構造）：施設、医療機器、スタッフの種類や数など
 - (2)プロセス（過程）：実際に行われた診療や看護の内容
 - (3)アウトカム（結果）：診療や看護の結果としての患者の健康状態
- の3つの側面について評価できることを提唱しました。



一方、米国医学研究所 (Institute of Medicine) によれば、医療の質とは「個人および集団に対する診療行為が望まれた健康状態をもたらす可能性の高さであり、かつ、最新の専門知識と合致する度合いをいう」と定義されています。「望まれた健康状態をもたらす可能性の高い、最新の専門知識と合致する医療」とは、根拠(エビデンス)に基づいた医療 (Evidence-based Medicine ;EBM) に他ならず、医療の質とは、EBM に則った医療をどのくらい行っているかと言い換えることも出来ます。一方、実際の診断や治療の内容という専門技術的な質だけではなく、患者の満足度に代表されるような対人関係や快適さを中心に考えた医療の質も考えられます。

Quality Indicator(QI)とは具体的な医療体制、診療内容、診療結果から、このような医療の質を数値化した指標です。これを公表することにより、病院機能の定量的な可視化が可能となり、またこの指標をフィードバックすることにより客観的な指標に基づいて、医療の質の向上に取り組むことが出来ます。

これらの指標を継続的に検討することにより医療の質向上に努めるとともに、医学の進歩を反映する新たな指標の導入についても随時検討して行きたいと考えています。

◆職員のインフルエンザワクチン接種率◆

インフルエンザは、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛などの全身症状が突然現れ、小児では稀に急性脳症を、高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。日本では、例年12～3月頃に流行しますが、インフルエンザワクチンを事前に接種することで、発病する可能性を低減させる効果と、重症化防止を期待することが出来ます¹⁾。

病院職員はインフルエンザ患者と接する機会も多いため、インフルエンザに感染するリスクは、他の職業と比べて高い可能性があります。また、来院する患者さんは免疫力が低下し罹患しやすい状態と言えます。毎年多くの病院で、インフルエンザの集団感染が発生し、これによる死亡症例も複数報道されています。病院は、免疫力が低下している患者さんが治療を受け、生活する場です。職員から患者さんへインフルエンザを感染させるようなことは、避けなければなりません。

そこで、当院では職員がインフルエンザに罹患した場合は、「解熱後48時間が経過するまで」あるいは、「発症後5日を経過するまで」は働くことができず、就業制限することが感染管理マニュアルで定められています。さらには、感染職員が多数発すると、人員不足が生じ、病院の機能に負の影響を与え、患者さんの安全確保が徹底出来なくなります。患者さんの安全面、そして病院の機能と提供する医療の質の維持の観点から、ワクチン接種のように実施出来る予防策は徹底し、病院としてインフルエンザ対策に取り組むことは、とても重要な活動になるのです。

一当院値の定義・算出方法

【分子】	インフルエンザワクチンを接種した職員数
【分母】	現行職員数（インフルエンザワクチン接種月初日）

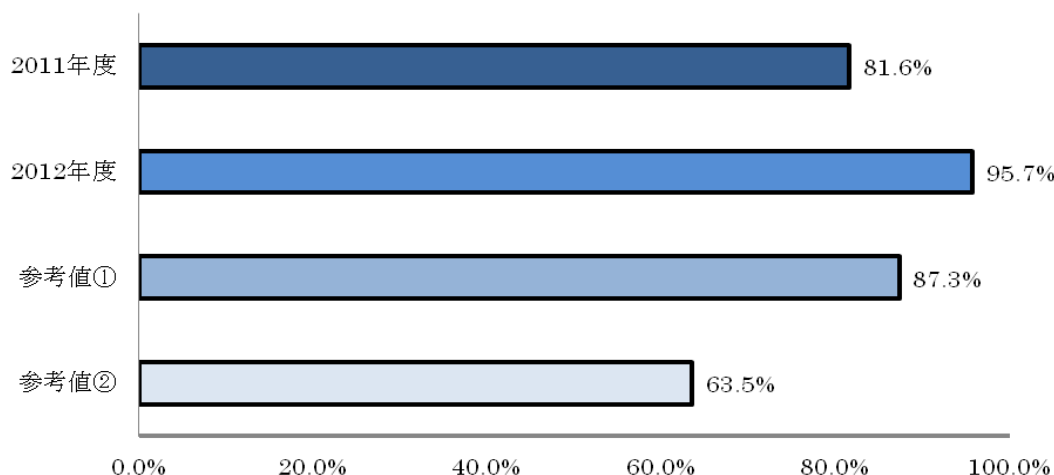
単位

%

【分母・分子包括】 外部委託職員、他院でワクチン接種した（接種予定のある）職員

【分母・分子除外】 卵アレルギー等の医学的根拠ある理由で接種不可能な職員

-年次推移-



※参考値

①87.3%²⁾・・・国立病院機構調査による病院職員のインフルエンザワクチン接種率（2008 年度）

参考値①定義・算出方法

【分子】分母対象者のうち、自施設でインフルエンザワクチンを接種した職員数

【分母】院内職員対象インフルエンザワクチン接種を開始した月の初日に在職している非常勤職員を含む
病院職員数（派遣職員を除く）

②63.5%³⁾・・・米国における病院職員のインフルエンザワクチン接種率（2010－2011 シーズンのデータ）

当院値をどうみるか？

2011 年度は 81.6%で参考値と比較しても、やや低い結果でしたが、2012 年度には、接種を拒否する職員に対して、その理由を届け出る制度を設置したため、接種率が 95.7%へ上昇しました。

これは、接種不可能な理由のある職員以外、ほぼ全員が予防接種を受けていると言えます。

米国の医療従事者におけるワクチン接種率は推定 63.5%にとどまっており（2010-2011 シーズン）、これと比較すると日本の医療従事者の公衆衛生への意識の高さが伺えます。また、日本では、145 施設が参加した国立病院機構調査による病院職員のインフルエンザワクチン接種率が公表されていますが、これも 87.3%であり、90%を超える当院職員の接種率は非常に高いことが分かります。

“非接種者へ感染管理室から拒否理由の確認、職種別接種率の公表と向上”

病院職員がインフルエンザの予防接種を受けることは医療に対するモラルの指標とも考えられます。

2010－2011 シーズン迄は、予防接種を拒否した職員に対する働きかけは実施していませんでしたが、2011-2012 シーズンから接種拒否の理由を感染管理室で確認し、各職種に対して医学的理由がない場合には接種を可能な限り推奨しています。

また、外部委託職員は医療者ではないため、インフルエンザワクチンに対する正しい知識を得る必要性があります。当院には感染管理を専従で行っている看護師（感染管理認定看護師）が在籍しています。この感染管理専従の看護師から委託業者へ必要時教育を実施し、医療者とともに病院感染管理には欠かすことの出来ない委託職員も含めて接種率を高め、入院している患者さんがインフルエンザに感染するリスクを少しでも低減していこうと努めています。

なお、当院では患者さんや市民の方々へのインフルエンザワクチン接種は地域の診療所・クリニックに担っていただいております。ご希望される方はお近くの診療所・クリニックにご相談ください。

<参考文献>

¹⁾ 厚生労働省ホームページ インフルエンザ Q & A <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

²⁾ 国立病院機構臨床評価指標 2009; 独立行政法人 国立病院機構本部

³⁾ CDC; Centers for Disease Control and Prevention;

CDC24/7: Saving Lives. Protecting People. Influenza Vaccination Information for Health Care Workers

TOPICS

北部医学会臨時例会を開催しました

平成 25 年 9 月 18 日（木）に、「北部医学会臨時例会」を開催しました。

この会は、医学界から注目される当院ご在職の先生に、最新知識を手ほどきしていただく、全職員向けの勉強会です。

今回は消化器センターの大越章吾先生に「肝炎診療の最新の知見」をお話しいただきました。肝炎の予防から治療まで、医療従事者でない方にも分かりやすい講演となり、あっという間の 1 時間でした。今後も定期的開催される予定です。



平成25年度第1回災害対策訓練を実施しました

平成 25 年 9 月 28 日（土）、本年度第 1 回災害対策訓練を実施しました。今回の訓練では、災害時の各部署の動きを確認することを目的とし、発災直後の本部員招集訓練・被災状況報告訓練・負傷者受入れエリアの設営確認などが行われました。当院の災害対策訓練に初めて参加する職員も多く、より迅速な情報収集など実際に発災した際に課題となる点について意見が出されました。今回の結果をふまえ、トリアージ（治療や搬送の優先順位をつけ負傷者を分類すること）の訓練や本部机上訓練など、機能ごとの訓練も実施する予定です。このような訓練を通し、災害拠点病院としての役割を果たすよう努めてまいります。



災害医療派遣チーム(DMAT)研修に参加しました

平成 25 年 9 月 30 日(月)～10 月 3 日(木)に東京都立川市の災害医療センターで災害医療派遣チーム(DMAT)の研修に、医師 2 名、看護師 2 名、事務職員 1 名の計 5 名が参加しました。DMAT とは、大地震や列車事故などの災害時に、迅速に救急医療等の援助を行うためのチームのことです。

この 4 日間の研修では、講義・机上シミュレーション・実動訓練を通して、災害時のトリアージや広域搬送訓練、情報収集・通信手法などを学びました。

北部病院では、4 月以降に 2 チーム目も結成される予定です。



編集後記



日増しに寒さが加わり、秋の色も深まって参りました。秋といえば食欲や読書、スポーツが盛んになる季節です。最近では、2020年夏季オリンピック開催地が東京に決定し、日本中が歓喜に沸きました。これを機にスポーツを始めた方もいるのではないのでしょうか。

適度の運動は、心と体をリラックスさせる効果があると言われています。私も、スポーツとまでいわず紅葉を見にお散歩に行くなど、運動を心掛けていきたいです。北部病院近くの都筑中央公園の紅葉も色づく頃だと思います。お帰りの際に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

広報委員会 委員 川淵 美和

北部病院だより 第 80 号

平成 25 年 11 月 1 日発行

発行責任者 田口 進 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 大越 章吾 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。